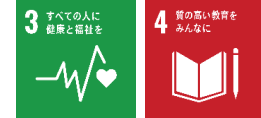


薬学学位プログラム



本プログラムの特色・強み

- ・多様な薬学研究分野（基礎・応用・臨床・社会薬学）での実践的研究指導
- ・臨床系教員と病院薬剤部の有機的連携によるデータサイエンスの強力推進



特色ある授業科目

- 【コースワーク・・・専門的で先端かつ広範囲な知識・情報の習得】
- ・世界最先端の薬学・生命科学研究者による「最先端薬学研究概論」
- ・病院薬剤部と協働し、データサイエンスを活用して薬物治療にイノベーションをもたらす「医療データサイエンス」
- ・学外での研究活動を通して社会実装に繋げる「最先端薬学研究実習」
- 【リサーチワーク・・・自立した研究遂行力の養成】
- ・各教育研究分野の専門性に基づく多様な「薬学実習」「薬学演習」

- ✓ 課題探究力
- ✓ 研究遂行力
- ✓ 課題解決力
- ✓ 成果発表力

の醸成

養成する人材：

次世代の薬学領域をリードできる薬学研究者・大学教員，博士号を有する高度先導的薬剤師・行政職

修了後の進路

- 🔬 薬学あるいは生命科学研究に関わる国内外の機関・企業研究者
- 🔬 薬学及び薬物療法の設計・支援領域で、臨床的課題を研究を通じて自ら解決できる高度先導的薬剤師
- 🔬 薬学、薬物療法の設計・支援あるいは生命科学領域で人類の叡智を拓げる次世代の大学教員
- 🔬 厚生・薬事行政を通じて、国民の健康・生活・将来を支える高度専門職業人

履修モデル：薬学学位プログラム

学生の経歴：薬学部6年制薬学科卒業・
薬剤師国家試験合格
動機：学部時代に実施した卒業研究を
発展・深化させ、薬学領域の将来に貢献で
きるような研究をしたい！

学位：博士(薬学)
学位論文題目：データサイエンスを活
用した炎症性腸疾患に対する薬物治療
法の検討
修了後の進路：国公立大学薬学部助教

入学

修了

必修科目
選択必修科目

一般入試	1年次		2年次		3年次		4年次		
	【前期】	【後期】	【前期】	【後期】	【前期】	【後期】	【前期】	【後期】	
専攻共通科目 (高度レベル アーツ科目)	研究方法論基礎 (3単位)				← 学生は、研究指導教員・副指導教員と相談し ← 学修とキャリア形成に必要な講義を選択履修する。				
	研究方法論応用 (3単位)								
専攻共通科目 (専門基礎科目)	医療データ サイエンス (2単位)	最先端薬学研究概論 (2単位)				← 学生は、研究指導教員・副指導教員 と相談し、学修とキャリア形成に ← 必要な授業を選択履修する。			
専門科目	選択必修 副科目	最先端薬学 研究実習 (2単位)	健康情報 科学特論 (2単位)	選択必修 主科目					
リサーチワーク	健康情報科学実習 (8単位)								
	健康情報科学演習 (4単位)								
	プラクティカムを含む								
審査	課題研究 (4単位)				30単位取得				
	研究基礎力審査				学位論文 執筆・投稿		予備審査 本審査		

人材養成目標：薬学及び薬物療法の設計・支援に関する高度で幅広い専門知識と技能、健康・医療に関する基礎研究から社会実証研究に至る諸相での課題抽出から解決までを自ら推進できる高い研究能力、及び国際社会への貢献に向けた国際感覚を有する、次世代の薬学領域をリードできる「薬学研究者」や「大学教員」、博士号を有する「高度先導的薬剤師」や「高度専門職業人」を養成する。

■ 薬学学位プログラム（コーディネーター 澤田 大介）

薬学及び薬物療法の設計・支援に関する高度で幅広い専門知識と技能に加え、健康・医療に関する基礎研究から社会実証研究に至る諸相での課題抽出から解決までを自ら推進できる高い研究能力、及び国際社会への貢献に向けた国際感覚を有する、次世代の薬学領域をリードできる薬学研究者や大学教員、博士号を有する高度先導的薬剤師や高度専門職業人を養成します。

修了後の進路として、薬学あるいは生命科学の研究に関わる国内外の機関・企業研究者、薬学あるいは生命科学領域で人類の叡智を拓いて社会実装を目指す次世代の大学教員、薬学及び薬物療法の設計・支援領域で、クリニカルクエストをリサーチクエストに昇華させて自ら解決できる博士号を有する高度先導的薬剤師、厚生・薬事行政を通じて国民の健康・生活・将来を支える博士号を有する公務員などを想定しています。

授業科目一覧

授業科目	標準 配当 年次	備考（担当教員）	単位数		
			必 修	選択必修 主科目	選択必修 副科目
コースワーク					
専攻共通科目（高度リベラルアーツ科目）					
研究方法論基礎	1・2	（学務委員長）	3		
研究方法論応用	1・2	（学務委員長）	3		
専攻共通科目（専門基礎科目）					
医療倫理と法律的・社会的問題	1・2	（神田 秀幸）			0.5
医療対話学（コミュニケーションスキル）	1・2	（大西 勝）			0.5
医療データサイエンス	1・2	（座間味 義人、小山 敏広、濱野 裕章）			2
最先端薬学研究概論	1～3	（薬学系部会長）	2		
専門科目					
毒性学特論	1～3	（小野 敦、児玉 進）		2*1	2*2
疾患薬理制御科学特論	1～3	（有吉 範高）			
健康情報科学特論	1～3	（小山 敏広）			
薬効解析学特論	1～3	（上原 孝、高杉 展正）			
臨床薬物動態学特論	1～3	（合葉 哲也）			
炎症薬物学特論	1～3	（杉本 幸雄）			
国際感染症制御学特論	1～3	（金 恵淑）			
臨床病態診断学特論	1～3	（岩崎 良章、大西 勝、岡部 伸幸）			
救急災害薬学特論	1～3	（名倉 弘哲）			
衛生微生物化学特論	1～3	（三好 伸一）			
構造生物薬学特論	1～3	（山下 敦子、安井 典久）			
精密有機合成化学特論	1～3	（澤田 大介、阿部 匠）			
創薬有機化学特論	1～3	（好光 健彦）			
天然物化学特論	1～3	（久保田 高明、谷口 抄子）			
合成医薬品開発学特論	1～3	（加来田 博貴）			
生体機能分析学特論	1～3	（上田 真史）			
生体膜生理化学特論	1～3	（表 弘志、日浅 未来）			
膜輸送分子生物学特論	1～3	（宮地 孝明）			
薬物動態制御学特論	1～3	（檜垣 和孝、丸山 正人）			
分子生物学特論	1～3	（垣内 力、古田 和幸）			
生体物理化学特論	1～3	（須藤 雄気、井上 剛）			
脳卒中特論	2・3	（安原 隆雄）			
心筋梗塞特論	2・3	（中村 一文）			
メタボリックシンドローム・肥満症特論	2・3	（和田 淳）			
アンチエイジング特論	2・3	（尾崎 敏文）			
臨床老年医学特論	2・3	（光延 文裕）			
口腔ケア・摂食嚥下機能評価・栄養学特論	2・3	（高柴 正悟）			
最先端薬学研究実習	1～3	プラクティカムを含む（受入指導教員）	2		
リサーチワーク（学生の研究活動と受入指導教員による研究・発表指導を単位化した科目）					
薬学実習（別表参照）	全	実験・調査・記録（受入指導教員）	8		
薬学演習（別表参照）	全	学内・学外での研究発表（受入指導教員）	4		
課題研究	2・3	研究基礎力審査（学務委員長）	4		
グローバル・プレゼンテーション1	全	国外国際学会での研究発表（受入指導教員）			1*3
グローバル・プレゼンテーション2	全	国内国際学会での研究発表（受入指導教員）			1*3
修得すべき単位数			26	2	2

*1 選択必修主科目：指導教員が担当する授業を選択履修する。

*2 選択必修副科目：選択必修主科目以外の授業を各学生の専門性に応じて選択履修する。選択必修主科目との重複履修は認めない。

*3 単位修得に上限は設定せず、繰り返し修得を可とする。修了要件に含む単位としては2単位（グローバル・プレゼンテーション1又はグローバル・プレゼンテーション2のいずれか一方で2単位も可）を上限とする。上限を超える単位については、修了要件外とする。

授業科目群	授 業 科 目	単 位 数	
		実習	演習
薬学実習	毒性学	8	4
薬学演習	疾患薬理制御科学	8	4
	健康情報科学	8	4
	薬効解析学	8	4
	臨床薬物動態学	8	4
	炎症薬物学	8	4
	国際感染症制御学	8	4
	臨床病態診断学	8	4
	救急災害薬学	8	4
	衛生微生物化学	8	4
	構造生物薬学	8	4
	精密有機合成化学	8	4